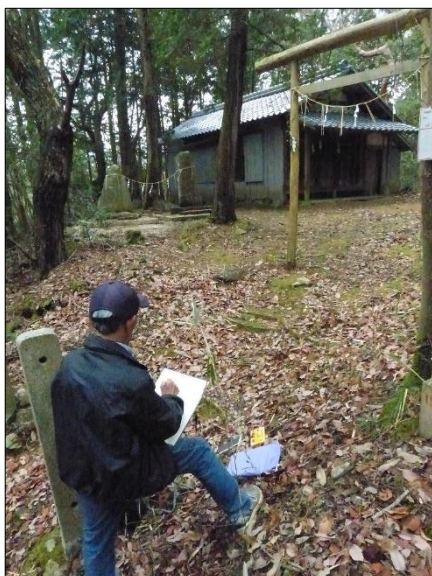
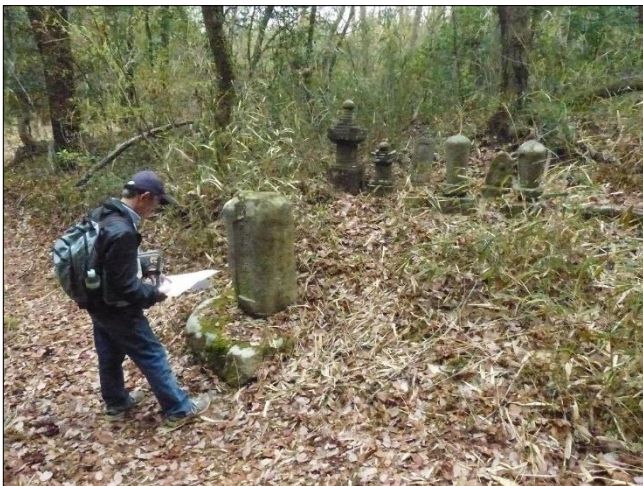


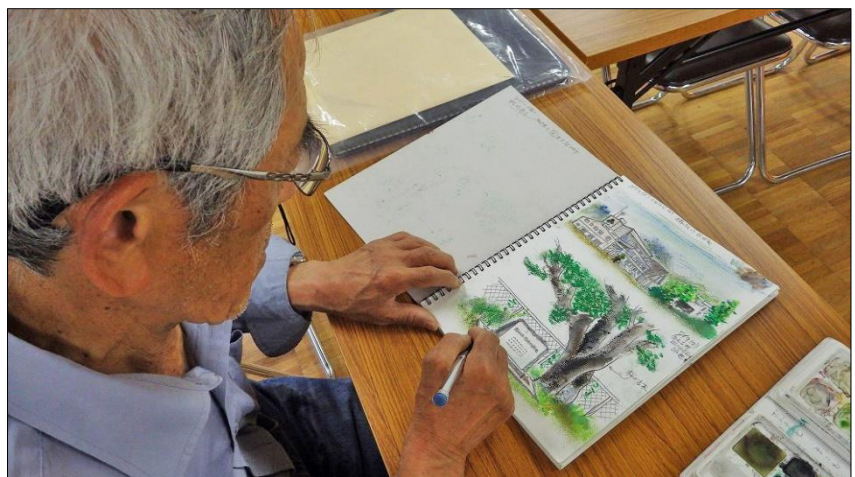
掛川マップを制作しています

掛川地域力向上委員会のコミュニティーグループは、地域の資源を有効活用するため史跡や名木、ビューポイントなどを紹介するマップの作成を行っています。昨年度は定光寺町と下半田川町それぞれ畳一枚ほどの大きさの用紙に写真を貼り付けたマップを作成しました。



富士宮社のスケッチ

↑いしろうじの宝篋印塔を現地視察



旧掛川小学校跡地のスケッチ仕上げ作業



すでにできあがっている両町の掲示用マップ

掛川地区の住民だけでなく、瀬戸市民に広く利用してもらえるように今年度はA3サイズでカラー印刷のガイドマップ作成を予定しています。写真よりイラストの方が親しみやすいので、定光寺町の水野金光さんに作成を依頼しました。金光さんは下半田川町にも何度も足を運び、現地でスケッチをされています。この取材は7月には終わる予定です。

お助けたいの発足式を行いました

6月2日（木）、掛川公民館にて第1回お助けたいの「たい員会議」があり、併せて発足式を行いました。

お助けたいの活動を運営するにあたって、規定の確認や役割分担、活動上の留意点などを話し合い、できあがった「たい員用ベスト」を配付しました。

たい員は次第に登録者が増えて、現在36名です。

お助け要請や、たい員登録は随時受け付けています。お助けたいに関する申し込みや問い合わせ等は下記へ。

前田純二	48-4434
小林久仁於	48-5273



～環境整備作業～①

花苗が植え付けられました

6月4日（土）と18日（土）、コミュニティグループのメンバーが中心となって定光寺町と下半田川町の花壇8カ所にサルビア、マリーゴールド、ニチニチソウの花苗あわせて750株の植え込み作業を行いました。

今まで植えられていたシロタエギクは、まだ勢いがあるので位置を変えて植え直しました。しばらくすると黄色の花が咲いてくることとされます。



下半田川町 天神橋の花壇



定光寺町 養蜂場入り口の花壇

～環境整備作業～②

地域のゴミ拾いをしました

去る5月28日（土）午前8時から地域の環境整備作業が行われ、下半田川町と定光寺町の幹線道路を中心にゴミを拾いました。

今回は小学生の参加もあり、両町合わせて70名の方々に協力いただきました。ご苦労さまでした。



～環境整備作業～③

掛川小学校の草刈りをしました

6月12日（日）掛川小学校の廃品回収終了後、小学校の校庭周りの草刈り、草取りが行われました。



暑い中、保護者、下半田川町・定光寺町の自治会役員の方、地域力向上委員会の方などたくさんの方が参加され、1時間あまりで作業が終了しました。



～環境整備作業～④

オオサンショウウオ人工巣穴付近の草刈りをしました



6月12日（日）、蛇ヶ洞川のオオサンショウウオ人工巣穴付近の草刈りをしました。

地元民のほか、地域で採石事業を展開している小西砕石工業所からも社員数名が駆けつけ、応援していただきました。ありがとうございました。



泥リンピック・代掻き・田植え

5月19日（木）、掛川小学校の学習田で、代掻き前の恒例の泥リンピックが催されました。子どもたちは泥んこになりながら歓声を上げ、競技に夢中になっていました。泥リンピック終了後の5月26日（木）、学習田の田植えをしました。

代掻きや田植えは毎年、地域のボランティアグループがサポートしています。



上：綱引き 下：かけっこ 左：田植え



年齢はいつの時点で一つ増えるのか？

「年齢はいつの時点で一つ増えるのか？」と問われれば、ほとんどの人は「誕生日」と答えるでしょう。

ところが、年齢が一つ繰り上がるのは法的には誕生日の前日なのです。日本には明治35年に制定された「年齢計算ニ関スル法律」というのがあります。また別に、明治29年制定の「民法第143条」があります。この二つの法律によると「人の年齢は生まれた時間に関わりなく、誕生日前日の24時をもって一つ加算される」ということになっているのです。誕生日前日の24時というのは誕生日がスタートする午前0時と時間的には同じなのですが、あくまでこの法律では前日の最後の瞬間であって誕生日当日をさしてはいないのです。通常私たちは「誕生日が来たので年を一つとった」などと話していますが、これは日常生活にはほとんど差し障りがないから問題にならないにすぎません。

気をつけなければならないのは、とくに1日生まれの人です。

たとえばAさんの誕生日が7月1日だったとします。Aさんが勤めている会社では定年を「満60歳になった日の属する月の最後の日」と決めていたとします。慣例的な解釈をすれば7月1日が誕生日なので60歳になった7月の末日、つまり7月31日まで勤められると思いがちですが、法律に従えば6月30日にやめなければならないのです。60歳になったのはあくまで誕生日前日の6月30日だからです。

選挙権年齢が18歳に引き下げられ

ました。7月10日に実施される参院選挙は、投票日翌日の7月11日に満18歳の誕生日を迎える人までが対象となっています。法律によれば当該の人は投票日当日の7月10日にはすでに満18歳に達しているからです。

4月1日生まれの子が前年度の3月31日までに生まれた子たちと同学年になるのも「年齢計算ニ関スル法律」、「民法第143条」および「学校教育法」によるからです。「学校教育法」では小学校1年生に就学するのは前年度末までに満6歳になった子どもであることが定められています。4月1日生まれの子は法律によれば前日の3月31日、すなわち前年度末にすでに満6歳に達しているので新年度の1年生となり、2日以降に生まれた子は翌年度に回されるのです。

このように「年齢計算ニ関スル法律」と「民法第143条」に支配される他の法律や決まりはほかにもたくさんあります。

新1年生に就学させる基準が4月1日生まれの子も含むというのは一般国民には分かりにくい、と国会で問題提起されたことがありました。しかし、法改正には至りませんでした。年齢に関係する法律をいじると影響を受ける他の法律や規則がたくさんあって、全てに手を加えなければならなくなることや、法改正による利害が広汎に及ぶことなどが想定されるからだと思われます。



会員の声
青と緑によせて一雑感

定光寺町 井上俊幸

井上俊幸さんは教師になられた時の最初の勤務校が掛川小学校でした。それ以来、定光寺町民です。

「今年は緑がきれいだねえ。」「毛虫が全くいないなあ。」ゴルフで日焼けしたお隣さんとの立ち話である。

日常、緑と青はいちばんに触れる色だ。朝、戸を開ければ先ず目に入るのは山の緑と空の青だ。春になって、樹種によりそれぞれに萌えた緑の山は、下から上へとグラデーションとなって空の青と稜線を描く。瑞々しさ、生命力、清々しさの感覚を与えてくれるこの色合いを誰もが好きだ。

青という感覚を表現する言葉は、実に幅が広い。極端には岐阜県のある村では少し以前まで黄色を青と言っていた。交差点の青信号は緑だそうだが、空の青をブルー、緑をグリーンといったら区別がはっきりするかも。実際は、青も緑も受けるイメージは同じなので、共通してどちらも青と表現している。目にする緑色のほとんどは、植物の葉緑素の色素で、これが量的に青色系の中心をなしている。

緑ヶ丘、緑のおばさん、みどりの日、緑の羽根、緑化運動、緑十字、緑地公園、画家たちの青の時代、童謡唱歌、青い鳥、ドラえもん電車、青眼一故事、恋は水色、青春、緑の黒髪、陶生病院の床が青色、青色シートのバス、…のように安全、安心、希望、勇気、平和、幸福、若さ、ゆとり、自然など、これら青色から受ける

イメージは緊張をほぐし、目を休め、視覚的にも抵抗がない。

かき氷の暑い季節になると青い波に千鳥が飛んで、その中に赤く氷と書いた四角な旗が店先に揺れる。

浜田広介の童話「泣いた赤鬼」では、去って行ってしまった青鬼の友情に赤鬼が気付いて泣いてしまう。

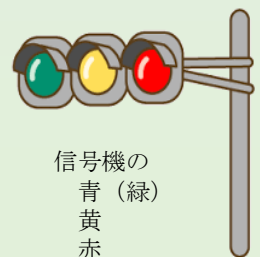
交差点などで見かける路面の赤と青のレーン、緑の谷に架かる赤い橋などなど青は赤と相性が良く互いに補完しあっている。

赤い血を持った生き物は青い植物を食。ベズには生きていけないそうである。緑と赤という不思議な関係である。

赤崎勇教授の研究チームが青色LEDを開発してノーベル賞を受賞した。赤崎さんが青色に魅せられたのも不思議なご縁である。

「やまびこ」の原稿依頼を受けた時、五十肩を患っていた。はがき程度しか書いたことがないのでずいぶん迷ったが、お受けした。間もなく帯状疱疹にかかってダブルパンチ。

ざっくばらんで無理のある文になってしまったことをお詫びしたい。



信号機の
青(緑)
黄
赤

編集後記



「やまびこ」には、みなさんが楽しく読んでいただける記事をリアルタイムに載せていきたいと思っておりますが、限界もあります。それを補完する意味で最新の情報を瀬戸市地域力支援室のHPに投稿しています。(M)

検索 ➡「瀬戸発！まるっと地域力」<http://203.129.114.11/chiikiriyoku/>